

2019年度 3教科A方式 世界史

(I)

【解答例】

問1 ⑤ 問2 ③ 問3 ⑤ 問4 ② 問5 郷挙里選

問6 中央から地方に中正官を派遣し、中正官が郷里の評判によって、人物を9等に分けて推薦する。中央政府はこれにもとづいて官職を与える。 問7 ②

問8 門閥貴族を抑えるため、隋の文帝が開始した科目試験による官吏任用制度である。隋・唐では貴族制度を十分打破することはできなかったが、宋代には太祖が皇帝みずからがおこなう殿試を導入し、3段階制の試験制度とした。殿試によって皇帝と官吏の結びつきが強固なものとなり、官吏任用制度として確立された。

問9 ① 問10 ①

【講評】

(I) は中国の官吏任用制度に関する問題です。記述式の問題では、穴埋めの問5はよくできていましたが、問6や問8では部分的にしか合っていない解答が目立ちました。単語のみを覚えるのではなく、制度の内容や変遷も理解するように心がけましょう。

(II)

【解答例】

問1 ④ 問2 バビロン捕囚

問3 (1) ②

(2) 唯一の神ヤハウェに選ばれ、その契約を守る自分たちの民族こそが救済を約束されていると考える思想

問4 (1) ③ (2) ④ (3) ディアスポラ 問5 ①、⑤ (順不同) 問6 ②

問7 (1) アッコン (2) ① (3) ④

【講評】

聖都エルサレムをめぐるユダヤ、ヨーロッパ、イスラームの古代、中世史に関する出題です。基礎的な事柄はもちろん、多少細かな知識を問う問題についても全般的に良好な成績だったと思います。とくにローマの五賢帝に関する問4(1)やマムルーク朝についての問7(2)(3)は9割以上の方が正しく答えていました。反面、やや難しいと思われたのは問3(2)の選民思想を問う設問で、正確さを欠く答案が見受けられました。たとえばヤハウェは救世主メシアとは異なりますし、救済は死後のことと明言されているわけではありません。異なる文化を理解するには、先入観にとらわれないことが大切です。

(III)

【解答例】

A 問1 ② 問2 ④ 問3 ② 問4 ① 問5 カーバ 問6 ②

B 問7 ④ 問8 メイフラワー 問9 ① 問10 代表なくして課税なし

C 問11 ③ 問12 ミシシッピ 問13 メキシコ 問14 ④ 問15 ゴールドラッシュ

【講評】

Aはオスマン帝国の台頭に関する問題で、問1と問3はよくできていましたが、20世紀の事件と関連づけた問4の正答率は3割弱(約27%)でした。B、Cは北米植民地とアメリカ合衆国の誕生に関する問題でしたが、全体的に正答率が高く、とくに問7と問11は9割以上でした。その反面、アメリカ=メキシコ戦争に関する問13と、独立戦争当時のフランス国王についてたずねた問14はやや難しかったようです。

(IV)

【解答例】

問1 阮福暎 問2 ピニョー 問3 劉永福 問4 黒旗 問5 ②

問6 ④ 問7 ④ 問8 ⑤ 問9 ④ 問10 ②

問11 ジュネーヴ協定後南を支配した親米派のゴ=ディン=ジェムに対して、北の支援を受けた南ベトナム解放民族戦線が抵抗を開始した。アメリカは北ベトナム爆撃を行ったが、北は屈服せず、1973年、ベトナム(パリ)和平協定によってアメリカはベトナムから撤退した。 問12 ②

【講評】

全体として6割前後の正答率でしたが、いくつか正答率の低い設問がありました。問8のラオスのインドシナ連邦編入は多くの教科書に記載されていますが、1割強(13%)の正答率でした。問11は用語の理解を問う出題ですが、出来の良い答案とよくない答案の差がはっきり出ました。